

調査6 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

《改善要因》

- 防衛費の増大、医療機器開発予算が増加。(製造業)
- オリンピック関連工事で業界は忙しい。(製造業)
- 新住宅の人口増で新規顧客が増加した。(不動産業)
- 同業他社の単価上昇により自院の単価上昇がしやすくなった。(サービス業)
- 人手不足による受注価格の値上げができた。(サービス業)
- サービスの充実と職場の環境整備。(サービス業)
- 消費税増税でメニューの値上げをした。客離れはなかった。(サービス業)
- リニューアルをしたため。(サービス業)
- ハイテク商品の普及。(卸売業)
- 個人営業の小規模店なのでお客との交流感を大事にしている。(飲食業)
- 府中伊勢丹退店以降、新客の来店が見受けられ食料品や進物などを中心に売上が改善。(小売業)
- 事業のイノベーション。(小売業)
- オリンピック需要が落ち着き、若干人材の動きが出始め一時期よりは採用がしやすい傾向にある。その影響で極端な人件費の高騰はみられなくなった。(運輸業)

《悪化要因》

- 米中貿易摩擦が要因(製造業)
- 災害復興に予算が優先し、防衛インフラが遅れる。(製造業)
- 増税による価格高騰で受注が減少。(製造業)
- オリンピック関連工事の減少。(建設業)
- 仕入価格の上昇。(建設業)
- 行政の停滞。(建設業)

《悪化要因》

- 少子化(建設業)
- 東京都最低賃金の上昇(サービス業、飲食業、小売業、運送業)
- 顧客の高齢化と減少。(サービス業)
- 全体的に消費マインドが低下している。増税前の駆け込み需要もなく、増税後の生活防衛意識、節約志向から消費は振るわない。(卸売業)
- 中国経済の停滞、インドの景気不透明(卸売業)
- 若い世代の常連客が減少(飲食業)
- 飲食店は食べ放題、飲み放題をやりすぎ、結果、商品・サービスの低下を招いた。(飲食業)
- 夏の猛暑、相次ぐ台風の影響で客数が減少。消費税増税による仕入価格のアップ、最低賃金のアップにより利益が減少。(飲食業)
- 小売業はネット販売の価格競争で利益が上がらず苦戦している。(小売業)
- 温暖化・暖冬による服の需要が悪化。消費税増税による購買意欲の低下。日韓貿易関係の悪化。(小売業)
- 増税後のアパレル類の売上げが芳しくない。(小売業)
- 人員不足、人件費高騰により求人募集しても集まらない。(小売業)
- 最低賃金が高すぎる。23区とそれ以外で区別してほしい。(小売業)
- 気候変動、少子高齢化、ネット市場拡大、人材不足。(小売業)
- 通販業界の価格競争の激化。主仕入先が直販売をはじめた。(小売業)
- 人件費が毎年増え経営悪化になっている。人材不足による売上減。最低賃金の増加を止めて欲しい。(運輸業)
- 消費税増税、世界景気の悪化、少子高齢化のミックス。(運輸業)
- 取引先の経営状況の変化で、経営方針の転換により大きな影響を受けやすい。取引先の収支改善の調整弁となってしまう立場にあるので対応が厳しい。(運輸業)